

Contents

8,681,000人*の1人としての私.....	1
プラスランチ・パーティ 2007.....	2
第6回 東京プライドパレード.....	4
Our days展.....	6
ふれいす東京 新人ボランティア合同研修会.....	7
活動報告(2007年7~9月).....	8
お知らせ.....	12

8,681,000人*の1人としての私 ~第8回アジア太平洋地域エイズ国際会議(ICAAP)に参加して~

川名 奈央子

8月にスリランカ・コロンボで、第8回アジア太平洋地域エイズ国際会議(ICAAP)が開かれた。テーマは、「変化の波、希望の波(Waves of Change, Waves of Hope)」。若い世代の力を感じたり、アジア太平洋地域の女性のネットワークが動き始めたりと明るい希望も多かったが、治療へのアクセスに関してはまだまだ厳しい現実がある。

アジア太平洋地域で、治療が必要なHIV陽性者のうち、それを受けられているのは19%に過ぎない。治療へのアクセスを阻害する要因はさまざまである。製薬会社は薬を開発するのに莫大な費用がかかるという。そして、そうやって開発した薬には高い価格が設定される。アジア太平洋地域のほとんどの国では、自国でジェネリック薬**を製造したり、そうした国から薬を輸入したり、国連エイズ合同計画、エイズ・マラリア・結核と闘う世界基金などの国際機関のプログラムを利用することにより、第一世代の治療薬を無料で提供するプログラムを実施している。それでも現実には問題は山積みである。

例えば、ICAAP開催国スリランカで治療を提供しているのは大都市コロンボの1つの病院のみである。地方に住んでいるHIV陽性者はお金と時間、労力をかけてそこまで行かなくてはならない。また、治療薬が無料で提供されていても、免疫の状態を調べるCD4検査や、HIVのウイルス量を調べる検査が利用できる場所は本当に少ない。アジアのある国の友人は第一世代の薬を飲み続けていたが、2年後に初めてバンコクでCD4の検査を受けたところ、CD4は数十台だった。彼の持っているウイルスは第1世代の治療薬に耐性があり、全く効いていなかったということなのだが、それを調べる手段がなければ知る由もない。そして、彼が第2世代の治療薬に変える必要があっても、彼の国ではそれを手

に入れるべきがない。第2世代以降の治療薬は1995年に世界貿易機構(WTO)が定めた「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定(TRIPs)***」の発効以後に開発された薬であるため、ジェネリック薬の製造が法的に困難になっている。途上国は国のプログラムでこのような高価な薬を提供することが難しい。カンボジアでは無料で提供された薬を個人病院や薬局に売っている人たちもいる。明日の健康よりも今日を生き延びる食べ物を得ることが大事だからである。また、MSM(男性とセックスする男性)、IDU(注射による薬物使用者)、セックスワーカーは、そのような行為を犯罪化するような法律や根強いスティグマのために、抗HIV薬どころか、保健・医療サービス、そして予防へのアクセスも難しい。

では、このような状況をどうしたら変えていけるのか。

それは私たち陽性者がHIV/エイズ対策の主体になることである。GIPA(HIV陽性者のHIV/エイズ対策への参画拡大)の原則が、1994年にパリで開かれたエイズ・サミットで公式に採択されてから十数年。何をいまさらと思うかもしれない。けれど、政府やドナー(資金提供者)となるNGOが形式的に陽性者を会議の場に座らせることは多いが、本当に意味のある関与や参加には程遠い。私たちが意味のある参画をするには、私たち自身が自分たちの問題を捉え、声に出し、行動に移していけるような力をつけることも必要である。JaNP+では毎年、スピーカー研修を行っており、APN+もスピーカー研修のほかに、カウンセリング・スキル、アドボカシー、調査スキル、モニタリングと評価、GIPA、ジェンダーなどのワークショップを行っている。けれど、GIPAの実現は私たち陽性者だけでできるものではない。私たちの経験や知識を重要な資源として活用するという、政府や国際

機関、ドナーのコミットメントが必要である。これには、HIV／エイズ対策への資金拠出を確実にすることや、それをもっとコミュニティに還元できるプログラムに使うことを保障することも含まれる。GIPAの原則とは、国や国際機関が行うHIV／エイズ対策に、私たち陽性者が「参加させてもらう」のではなく、政府や国際機関、NGOなどが私たちのパートナーとして一緒にやっていくということではないか。

2008年にメキシコシティで開かれる第17回国際エイズ会議のテーマは「今こそ、ユニバーサル・アクションを」(Universal Action Now)。GIPA、そしてパートナーシップの意味とそのあり方を見直し、アクションを起こしていかなければならない。

- * アジア太平洋地域のHIV陽性者の推定数(“UNAIDS AIDS Epidemic Update: December 2006”より)
- ** 特許の対象となっていない薬を合法的に生産するもので、成分・効能は特許薬と同一である。
- *** WTOの加盟国に20年間にわたって、医薬品を含む新製品の著作権と特許権を保護することを義務付けている。

川名奈央子プロフィール

日本HIV陽性者ネットワーク(JaNP+)国際担当。2006年2月からアジア太平洋地域HIV陽性者ネットワーク(APN+)共同代表。2007年に国内の女性陽性者ネットワークLive Positive Women's Networkを立ち上げる。また、同年10月から始動したアジア太平洋地域の女性ネットワークWAPN+(Women of APN+)の運営委員も務める。

プラスランチ・パーティ 2007

HIV陽性者とパートナーが中心となって企画・運営される多国籍交流会である、第3回目のプラスランチが9月16日に行われました。(アーユス、クリアチーボス、SHARE、TAWANの共催、ジャンププラスの後援)前回までのネストでの開催が手狭となり、今回は都内の寺院での開催、8カ国から幹事やスタッフも含め総勢31名の参加がありました。

「プラスランチに初めて参加しまして」

田舎暮らしのだいすけ(一)

パートナーが病院で感染の告知をされたのは半年前。すぐにボクも検査を受けましたが、ボクは陰性。告知当初は泣いてばかりで沈んでいたパートナーも、病気の正しい知識を得るとともに時間が経つにつれて、次第にもとの平穏な状態に近づきつつありました。ちょうど様々な情報を得ていたweb NESTでぶれいす東京などが主催するランチパーティーが開催されることを知りました。地方に住むボくらにとっては、同じように病氣と向かい合っている人たちと知り合うことは容易ではなく、孤立感を持っていましたので、ほかの参加者と気軽に情報交換や相談ができるといいなと思い、ランチパーティーに参加することにしました。

ランチパーティー当日、会場は明るく穏やかなムード。各参加者が持ち寄ったいろいろな料理を食べながら、参加者やスタッフのみなさんとの交流が始まりました。ボくらには最初のうちは、少し緊張気味でちょっと人見知りもしていましたが、スタッフのみなさんが本当に気さくに話しかけてくださり、しかもほかの参加者(特に感染者とその陰性パートナー)と話せるようにいろいろ配慮していただきました。そのおかげで、多くの方と話す機会を持つことができ、悩みごとや日々の暮らし方まで生の情報を得ることができました。

生まれ育った地元で病氣を明らかにして交流活動をしているのは難しい場合があります。今回は地元を離れ、このランチパーティーに参加することで、普段抑えている心を解放することもでき、気持ちもぐっと軽くなり、帰ってくることができました。



あたたかいタイのデザート「ブッワット・マン」

「プラスランチ 2007 感想文」

TAWAN (A Voluntary Group To Support The Health Of Thai Migrants Living In Japan.)

荒井アオイ

- ・世界的な空間 皆一緒、同じ日本に暮らしている!
- 今日は初めて参加しました。沢山の正直と沢山の元気と沢山のPOWERをもらって帰りました。有難うございました。参加人数は多く、いろんな国籍の人(日本、ミャンマー、タイ、韓国、ブラジル、アフリカの国など)が参加して国際的です。駅の近くの会場でもとても便利、案内の地図も分かりやすい。初めての会で、手話で話している日本人と出会った。一緒に会場に入りました。私はタイから来ましたと自己紹介しました。相手の目や顔の表情でわたしのことを受け入れてくれたとすぐにわかり、とても嬉しかったです。皆、普通で、Friendlyです。見た目もこころもふつうです。健康です。そして話してみると皆仲間となりました。
- ・どこでも場所…皆の場所!
- 私たちの行けるところがある。嬉しいです。安心してお話が出来る。
- ・美味しい 世界料理!
- 持ち寄った一品の食べ物を選ぶのに迷うほど種類はいっぱい。まず何から食べるのか選ぶのに困るほど。でも、何を食べたのか名前や味を今は覚えていない!今日のLunch Partyは美味しかったです。ご馳走様でした。
- ・タイの踊り、ブラジルの踊り…
- 皆さんと一緒に踊って、汗かきました!楽しかったです。
- ・私に教えてくれました!
- ある日本人の発言で私の心に残っているのは「体の中にHIVウイルスが入ってきても病氣ではありません!自分は普通です。人間の身体って色々なウイルスが入っています。皆一生懸命生きている、生活している。その中で健康

を保つために一生懸命バランスの良いものを食べて、運動して、働いて、元気に生活している。人間皆同じです。」どうも有難う御座いました。

「プラスランチ 2007に参加して」

yoshi

この度のプラスランチパーティーは第3回ということで、私は第2回から引き続き2回目の参加をさせて頂きました。世界各国の珍しい手作りの御料理もお腹いっぱいゆっくと食べることができまし、食事の後はタイの盆踊り風？なダンスなどみんなで輪になって踊ったりして楽しめました。



いろいろな料理がテーブルに

ランチパーティーも色々前回よりはグレードアップされて変わっていたのですが、今回自分自身にも大きな変化がありそれは新しく出来たパートナーと参加させて頂いたことです。前回一人で参加した二年前は、まだ陽性であることが分かって間もない頃で、どこかまだ吹っ切れていない気持ちもあったり、会場がやや狭いこともあってか、ベランダでタバコばかりふかしていました。

今回は色々な方と情報交換もできましたし、こちらがうらやましくなるような仲の良いカップルともお知り合いになりました。おかげさまでHIVという病気のことを肩肘張った状態ではなく自然な形で共有することができ、お互いの繋がりを深めることができました。

パートナーの彼は陰性なのですが、今回のような陰性のパートナーとも一緒に参加できるイベントは少ないので本当に貴重だと思いますし感謝しております。またこういう機会があればぜひ参加させて頂きたいと思っております。準備、運営、後片付けなどして下さったスタッフの方々ご苦労様でした。

「水は橋の下を流れ続けます…」

WS

数日前にHIV感染者の会に出席しました。私も同者です。私が居る橋の下に大量の水が流れました。私には水は命で橋は自分自身です。橋には多数の変化がありました。同じですが何か白蟻が柱の中にはいったみたい。診査してからこの3年間色んなことがありました。その後自然を学ぶことにしました。白蟻のこと、橋をどの様に食っていくのか、私の橋の柱の中にどのようにはいったか、そうして一番重要なのは何をしたら橋がとどまって水が流れ続けること。上記を読んで頂いた方は多分同じ場面に直面したと思う、だから意味も分かって頂いたと思います。私の経験から二つのことを大事にしていきたいです。

第1: 損害がより大きくなる前に橋の内部に白蟻が居ることが分かった。嵐の様な状況の中に橋が蝕まれて落ちる前に早めの診断でまだ橋が健全であったから良かった。ですから早目の診断はどの位重要なのか分かりました。

第2: 静かに我々の橋を蝕んでいく虫のことをもっと知り

たいです。命の水を豊富に溜めている方々と会って貴重な情報を聞いて交換したいです。なぜか？希望があるからです。

私は分かった、希望と恐れは気持ちです、私たちの感情の射出です、私たちの知識と私たちの経験。しかし、私達の一番重要な荷物としますと私たちは勝ちます。

私の橋は柱の上にはっきりとして立っています、これから先沢山の日の出夕焼けと流れる命の水を見て生きて、橋の上には私と同じ考えの方には場所があります。いつでもよろこそ。

「Lunch Partyの感想」

TAWAN : TU

今回の参加は2回目です。場所も良いし開放感がありとてもいい雰囲気でした。

いろいろな国々の本場の料理が食べられおいしかったです。またエンターテイメントの時間になるとみなさんは一緒にアジアの踊りやラテンのダンスなどを踊ってとても楽しかったです。それから外国人



タイのダンスですっかりなごみムード

が医療上に置かれる状況をRoleplayでみなさんに伝えられて良かったです。参加された方には多少でも理解して頂ければ幸いです。

ジャンププラスの方のSpeechを聞くと感動して、それにAdvocacyの気持ちが沸いてきました。Partyの最後に当事者のひとことを聞き、私は感動と勇気を与えられました。このような光景を同国の当事者が見られたら、どれくらい勇気を与えてくれているのか？同国の当事者が参加できなかったことが本当に残念です。この場所は肩の力が抜ける場所で、それにたくさんの仲間がいること。みなさんの協力こそ、このような素晴らしい、楽しいPartyができたこと本当にみなさんに感謝します。また何年かかるかわかりませんが、いつか、同国の当事者が一緒に参加できるように、期待しています。

「ワンダフル！」

chris

参加は2回目でした。プラスランチパーティーは久しぶりで食べたり、飲んだり、ダべったりという楽しく過ごして盛り上がってきました。前回より、フォーリナーが増え、たくさん手作り料理を食べてなかなかおいしかった！

シンプルなタイの踊り方とダンスをいい勉強になったと感じました。フォーリナーとデフの為、声と筆記の通訳してくれたボランティアスタッフ達がいて、いいコミュニケーション出来たことは本当に素晴らしかったんだ。ご親切ありがとう！そのお陰で元気になって、楽しいあまり帰路の足どりが軽く思わせたことは久しぶりでした。次回はまた参加したいし、それでは会場でまた。とても楽しみにしています。

今回の会場を見て思い出しました。僕は13年前、イギリス・ロンドンでウエストミンスター チャーチホールに出席した。これはHIV感染者の経験発表と欧州各国組織活動の

報告そして質疑応答が行われた。欧米、豪と僕がキャンドルを持ち、AIDS撲滅と健康を祈り、ミーティングを締めくくった。そして、パーティーを開催した。プラスランチパーティーではその場に相応しい行為と思った。

「国境を越えた HIV 陽性者の連帯の輪」

沢田 貴志

高層ビルが聳え立つ都心の一角にひっそりと佇む閑静な寺院。夏の日差しがまだ残る9月のある日、そこではスペイン語・ポルトガル語・タイ語・ビルマ語・日本語、韓国語、そして手話のあいさつが飛び交っていた。話される言葉が多様なら食べ物も世界中の様々な料理が持ち寄られた。タイの激辛スープから、アフリカのまるやかな豆のシチューまで。今年のプラスランチは、様々な文化や職業・セクシャリティの人々がそれぞれの思いを持ち寄って開かれた。

第一回のプラスランチが開かれた3年前、わたしが声をかけた外国人参加者のお2人はいずれもHAARTを安心して受けられる環境になかった。その後、それぞれ別の立場で

何とかHAARTを開始することができたが、その心の中はいまなお穏やかではないだろう。帰国したAさんは、いつ政府の支援が縮小されてしまうかわからない不安の中での治療である。日本で治療を始めたBさ



アーユス、TAWAN、SHARE 合同の寸劇

さんは、殆ど治療を受けることの出来ない母国の仲間たちに思いをはせている。

そんな厳しい状況の中でも開発途上国で、HAARTを受けられる HIV 陽性者の数は徐々に増えてきている。それを支えるべく日々取り組んでいるのは HIV 陽性者自身のネットワークである。さまざまな立場の人々が知り合い、このウイルスと生きるために互いを理解し、連帯が生まれている。その輪がいま静かに世界に広がろうとしている。

第6回 東京プライドパレード

LGBT (Lesbian, Gay, Bisexual and Transgender) の「可視化」と「共生」、そして HIV / エイズ予防啓発活動の推進をテーマとして、8月11日に「東京プライドパレード」が代々木公園を起点として開催されました。HIVに関するシンポジウムや、「REAL」Living Together キャンペーンが行われ、ぶれいす東京もフロートやブースなどに参加しました。

「本日は晴天なり！」

ノブ (Gay Friends for AIDS)

遂に今年も待ちに待ったパレードの日がやって来た！今年度は去年とは打って変わって朝から、強い日差しと暑さで、まさに夏！！

今年はエイズ予防財団のブースを、JaNP+ と Rainbow Ring とぶれいす東京で運営しました。チョット寝坊して会場に着くと、もう結構な人がフロートの受付に並んでいて、早速、



NGO やエイズ予防財団の共同ブース

LIVING TOGETHER 冊子や団扇の配布を開始！自分もLIVING TOGETHER 計画レッドリボンバッジキャンペーンの、レッドリボンバッジを持ってワンコインの寄付をお願いしながら会場を回りました。

しかし、あまりの暑さに少し歩くだけで汗びっしょり。暑さで団扇が大人気でした！今年のLIVING TOGETHER フロートのテーマカラーの団扇と冊子が入った袋の黄緑とレインボーカラーが会場に溢れて何か見ているだけで笑顔になっちゃうような、そんな雰囲気でした。みんな暑い中、立ち止まって募金してくれたり冊子を手にとってくれたり。

ありがとうございました。

そしていよいよパレードスタート！

今年のLIVING TOGETHER フロートは、BOOさんと

awaさんのライブもあって、普段歩いている渋谷の街を、ゲイの自分として、みんなと歩けるなんて、凄い嬉しくて、ちょっぴり泣いちゃったとか内緒…

「パレードを歩きながら思ったあれこれ」

さちこ (大学教員)

暑さのさなかをアスファルトの街路を歩きながら、心がウキウキしてきた。東京都のエイズ対策担当だった去年、パレードを知り初めて参加した時もそうだった。なぜだろう？歩きながら周りを見ると、沢山の人が笑顔で歩いている。それぞれが自分のやり方で、LGBTであることをいきいきと宣言されているんだなと感じた。そして私は、日常の話題ではタブーにされているセックスやセクシャリティのこと、HIV/AIDSのことを、普段の暮らしの中で考えたり話題にしたりする、そういう私を宣言しているのだと、心に浮かんできた。私にとっては、そんなパレードなのだ勝手に合点した。それが私を開放的な気分にしてくれるのかなと思った。

今年のAIDSのフロートは「REAL」。セクシャリティの多様性もHIV/AIDSの問題も、街の中ではその存在が見えにくい。でも歩く行為は目に見える。だから、街を歩く人達や沿道で手を振ってくれる人達によって作られる時間と空間は、この街でみんなが暮らしているありのまま



今年のフロートの先頭。メッセージは「REAL」

の現実を伝える行為のように思えた。もう少し私たちが、この街の「REAL」をシェアできるようになるといいな。私は、今年から看護学生の中で毎日を送っている。夏が過ぎて学生達が学校に戻ってきた。私たちが既に暮している街のrealityを学生達と、もっと話したいなと思っている。

「パレードに参加して」

KAZ

初めてパレードに参加したのは、もう10年くらい前のこと。その頃の私は、アルコールと薬物に依存しているワーカホリックだった。

今年久々にプライドパレードを歩いた。炎天下。木陰に入ると涼しい風が吹いていて気持ちよかった。ココロもカラダも伸びやかに息づいていて、ホントに心地よかった。

今回はNAやAAの仲間たちと一緒に参加した。NA、ナルコティクス アノニマスってというのは薬物依存症という病気から回復するためのセルフ・ヘルプグループ。アメリカをはじめ世界131カ国に3万を超すグループがある。日本でも全国120以上のグループが各地で毎日ミーティングを開いている。(ちなみにAAはアルコール依存症からの回復を目指す自助グループ) NAにもAAにもセクシャル・マイノリティだけの会場があるから私もそこに参加している。

薬もアルコールも使わないで生きることを始めて10年がたった。生きていて素晴らしい。参加できたことに感謝。パレードを開催してくれた人達に感謝。そして一緒に歩いてくれた仲間たちに感謝。ありがとう。来年もまた一緒に歩こうね。

「パレードで歩いて感じたこと」

匿名

パレード出発の直前に歩く事を決め、お忙しい中、みなさんをバタバタさせてしまいました。ネストでお世話になっている方々に背中押されての決意でしたが、歩いてみたら達成感があり楽しい時間となり、ありがとうございました。



“REAL”の団扇やバッグが会場や沿道にいっぱい！

パレード中シンガーさんが「REALに生きてるか？」って言うたび聴くたびに、鳥肌がたって胸が熱くなって…どこか忘れていた感覚なのかなあと。

どなたかのSNSの日記に書いてあったのですが無理をして、気張って生きる人生よりも、ありのまま自分をさらけ出しても、穏やかで明るく生きていこう。

「人生楽しんだもん勝ち！」

ちょっと前はかなりネガティブだったけど、周りに助けられ、ポジティブ精神を(自分も)コツコツと育てていこうかと思いました。

「LIVING TOGETHER フロートを歩いて」

愛媛のゲイ向け性感染症予防啓発グループ
Loving Safer in Ehime (L.s.E) 共同代表
新山 賢

8月11日。

今年の最高気温を記録したその日に、初めての東京プライドパレードを歩いた。

『“REAL” LIVING TOGETHER』

『HIVを持っている人も、そうじゃない人も、ぼくらはもう一緒に生きている。』

こんなメッセージを発信するLIVING TOGETHER フロートでのプライドパレード。

15時。いよいよパレード開始！

渋谷の街の沿道にはびっちり人ばかり。

「どんだけえ〜〜」のプラカードやレインボーフラッグを持ったお仲間さん、デート途中のノンケカップル、仕事中のショップ店員さん、親子連れetc...沿道に向かって手を振るとそんな皆が手を振って応えてくれたり声をかけてきてくれたり。パレードと一緒に歩いた友人ゲイカップルのキスシーンにカメラのフラッシュに祝福の拍手。



沿道応援が歩道橋の上にも

ゲイだってレズビアンだってバイだって、トランスジェンダーだってそしてノンケだって、ぼくらはもう一緒に生きているってこと、「なんだ、僕たちもう一緒に生きてるじゃん！」“REAL”にLIVING TOGETHERをパレードを歩きながら肌で感じた。

あ〜〜パレードってすごい気持ちいい！！来年は地元の友人を誘って歩いてみたいなんて計画中です。

「近いうちきっと一緒に…」

ジェニー・プレ

僕は今年初めてパレードに参加する機会に恵まれた。明るく照りつける夏空の下行われた東京プライドパレード。僕にとっては何もかも目新しく映ったが、会場でHIV/AIDSに関するシンポジウムが僕らだけでなく医療従事者や行政、NGOを交えて開かれたことはとても意義深く感じた。なぜならこれまで、彼らのフィールドでこの問題が議論されることが中心だったように思うからだ。

1996年頃を境に生まれたHAART (Highly active antiretroviral therapy) によってHIV感染症診療そのものは劇的な変化を遂げ、なおこの10年間で治療は進歩し続けているが、それを支える社会支援体制の構築もまた、この10年で少しずつではあるが、確実な一歩を歩んでいると思う。

その中には当事者としての僕らと医療従事者などの関係者との建設的な関係性という意味も含まれる。その結果として昨年度のエイズ学会があり、今回のパレードでの会頭シンポジウムがあったのだと僕は思った。

ときにHIVを通して僕らは自己のセクシャル리티や社会と向き合わなくてはいけない場面がある。ものすごくしんどくて立ちすくんでしまうこともあるけれども、シンポジウムでパネリストの方々の熱心な話を聴いて、ノンケもそれぞれの立場でHIV/AIDS問題に真摯に向き合ってくれてるのねってとても心強く感じた。

仕事柄、いろんな方のノンケ関係者の声をきく。もはやHIVの原因はHIVではない。HIVの原因はヒトなのだ。この絶望的な心情吐露は僕を追い詰めるだけに十分すぎるくらい力があつたが、きっとその発言は、純粋すぎるほどこの問題と向き合い傷ついてしまった結果なのかなとも思う。

だからこそ、そのひとももっと知って欲しい。もっと語り合う場が必要なのだ。これからのパレードがきっとそんな側面を持ち合わせてくれたら…そんな想いを胸に、その後のパレードを僕は歩いた。



代々木公園に凱旋

【“ REAL” Living Togetherキャンペーン】

張 由紀夫（エイズ戦略研究・MSM 首都圏グループ）

よく昔のゲイバーで、HIVが話題にのぼるときに「そういう話は今はしないでおきましょう？こういうバーっていうのはみんなが現実を忘れるために存在してるんだからさ」という言葉を深い皺を顔に刻んだママから聞いたことがある。それだけ様々な、しんどい現実を抱えて逃げて来た人たちがいたということなんだろう。そう思うと胸が痛い。でも、一方で、それでも現実を受け止めながら、それでも笑って生きていけたらいいのにな、と思いついたことを覚えている。

心の有様、人や世の中の「汚い部分」が剥き出しになってることを「リアル」と呼ぶことがあまり好きじゃない。人がたくさん死ねば「リアル」だと評価を受ける映画のことがわ

からない。でも上っ面ばっかで、ほんとの気持ちが見えにくかったり交わしにくい世の中に生きづらさを感じることはたしかにあるんだよな。

「LivingTogether」のHIV陽性者の手記を街の人たちに配ってる中で、よく聞こえて来た感想がある。

「なんだかとてもリアルに伝わって来たよ」

「こういう痛みや生きにくさがあるってこと、知らなかった」

ニュースや2ちゃんねるのうわさ話からは聞こえて来ない「事実」たちが、世の中にはほんとに溢れていて、人々との接点を探して迷っているのかもしれないと思った。

パレードの会場でみんな配った冊子「REAL」に載っている5人の陽性者の手記とコラム、そしていくつもの相談窓口の情報が、これからもいろんな街の、たくさんのバーやハッテン場に届いて、ちょこんとカウンターやなんかにおかれるといいな。先のゲイバーのママの言葉は今でも結構言われ続けている言葉なんだそう。でもママがそんなこと言ったら、お客さんやスタッフのなかにもきつという陽性者はいつまでたってもホントのことなんて話せない。それなしには生まれ得ない明日だってあると思うのだ。

心を開いて、いま生きてるぼくたちの「リアル」を語ることの出来る場所をどんどん作っていくこと。そしてその中で語りつづけること。「暮らしやすい街」はそんな小さなところから育っていくんじゃないだろうかと思っている。

Our days展

冊子「Our days」に掲載された手記と写真を中心に、未使用の蔵だしをあわせたパネル展示が、8月16日から24日まで新宿二丁目のコミュニティセンター akta に行われました。

『Our days』展

去る8月16日から24日まで、新宿2丁目の“公民館”aktaにて、『Our days』展が開催されました。

2年前に綴られた冊子『Our days』をもっとたくさんの人に読んでもらえたら…ということで、

aktaの壁面いっぱい陽性者の人たちが日々の暮らしの中でHIVを通して感じたこと、考えたことを綴った大きな文字の手記と、どこにでもありそうな街の風景が広がった大きな写真が並べて展示されていました。

期間中には、3日間に亘り、4組のミュージシャンの方に、“見上げてごらん夜の星を”を歌い継いでもらうライブ演奏もあり、夏の終わりに、ほんわりとした時間が流れ、なんだかとても、やわらかい気持ちになることができました。

展示された写真の中に、とても美しい黄昏どきの空とマンションの窓に明かりがひとつひとつ灯っている写真があったのですが、その写真が今回の展示に込められたテーマを一番表していたと思います。ひとつひとつの明かりに、それぞれ

カタミ



『Our days展』@akta

の暮らしがあって、HIVをとりまくいろんなことも、そんな明かりの中で、普通に灯っていることなんだなあって。みんないろんなことを抱えて生きていて、毎日、泣いたり、笑ったりしてるんだろうなあって、この写真を見ていると、そんな想像力が湧いてきました。

12月には今回とはまた趣向を変えて、2丁目のaktaとココロカフェの2カ所です『Our days』展をやりま。その際はぜひぜひ、足を運んでみてください

ね。いろんな想像力とやわらかな気持ちを持ち帰れるんじゃないかと思います。

来場者の感想は下記サイトでご覧になれます。

<http://tmp.ptokyo.com/notes1/view.php>



手記と写真を組み合わせたパネル



「自分の街」を虫ピンで記していくことができるようになっていく地図

ぷれいす東京 新人ボランティア合同研修会

2007年度の新人ボランティア研修会が、9月9日、17日、23日の3日間にわたり豊島区生活産業プラザで行われました。25名を超える方々が参加・修了しました。

気がつけば、今年で数えること6回目、毎年恒例となった各部門合同、新人ボランティア研修会を今年度も開催しました。



研修の一コマ（3日目より）

今年は、9月1日のオリエンテーションを皮切りに、9月9日、9月17日、9月23

日の3日間にわたって豊島区の生活産業プラザにて行いました。今年は主にインターネットを中心とした広報でしたが、30件以上の問い合わせとオリエンテーションの参加があり、研修には25名程度の参加がありました。

ぷれいすの研修には毎回多様な参加者があり、これも合同で研修をする醍醐味なのですが、今年もグループワーク等を通じて意見を交換するコマがあったり、自分の価値観や考え方に気付くコマがあったりと、変わらないのちょっと濃いめの研修でしたが、皆さん楽しんでいただけたのではないかと思います。

もちろん今年も去年の評価を踏まえて、プログラムの内容や構成も工夫してみたのですが、いかがだったでしょうか。ともあれ、研修に協力いただいた講師の皆さま、スムーズな運営に協力いただいた参加者の皆さま、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

これからは、各部門に散らばりそれぞれの活動に移りますが、ぜひ同期のスタッフ同士、活動中のスタッフとも交流していただき、活動の中でも色々な刺激や気付きを持ちつつ、ぷれいす東京の新たな力として、活動を支援いただければと思います。どうぞよろしくをお願いします。

なお、まだ事務所に来たことのない方は新しい！きれいな事務所にもぜひお立ち寄り下さいませ。

(文責 まきはら)

■研修参加者感想文 「合同研修会に参加して」

K

私はHIV陽性者なのですが、この合同研修会に参加するのはどんな人達なんだろうと思いつつ、ちょっとどきどきしながら会場へ向かいました。受付を済ませ、研修に必要な資料をいっぱいもらい、「これを3日間でやるのか。ちょっと大変だな」と思いました。

講師の方々のお話のうち、半分ぐらいはHIVに感染したときに自分で調べたり経験したことなのでそのことを思い出しながら、残りはとても興味深く聞くことができました。

またワークショップなどで、自分では考えもなかったさまざまな意見を聞いて、「こんな考え方もあるんだ」と気づかされ、いろいろな考え方を尊重していくことが大切だと実

	9月9日(日)	9月17日(月・祝)	9月23日(日)
午前	グランド・ルール	グランド・ルール	グランド・ルール
	社会的な背景 ／池上	医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識 ／福原	HIV感染後の生活 と社会サービス/ 牧原
	休憩	休憩	休憩
午後	医学的基礎知識① HIVの基礎知識と 検査法／福原	セクシュアリティ の多様性について ／砂川	ピア・サポートの 取り組み ／矢島
	昼食	昼食	昼食
	エゴグラムと交流 分析／野坂	相手のある保健行 動～ Condom 使用 と使用依頼～/ 生島・池上・スタ ッフ	支援って何だろう？ ／生島・スタッフ
	休憩	休憩	休憩
	感染者の手記を読 むワークショップ ／生島・スタッフ	プライバシーとは ／生島・池上	振り返り 今後の活動について
	振り返り	振り返り	

感しました。そして、HIV陽性者に対して何ができるか真剣に考えている人がこれだけいることをうれしく思いました。

3日間の研修はあっという間でした。これからこの合同研修会で学んだことを生かして、活動していきたいと思えます。そして、各部門で活躍される参加者の皆さんとまた会えることを楽しみにしています。

「ボランティア合同研修会に参加して」

吉田

ひよんなことからぷれいす東京を知り、研修会に参加しました。

ネガティブな感情やセックスに対するスタンス等、普段向き合えない自分の内面を掘り下げて、それを客観的に見るというのは非常に興味深く、自分の価値観に改めて驚いたり、納得したりと忙しい3日間でした。

この研修で印象に残ったのは、ワークショップと毎回最後にある振り返りの時間です。ワークショップでは一つの物事にも人それぞれの感じ方があることを再認識し、自分の考えを一般化してしまう姿勢を反省しました。そして、自分の感情を表現するというのはこんなにも難しいものかと痛感しました。また、振り返りの時間があることで、内容盛りだくさんの研修で得たものを整理して消化することができたように思います。

反対に驚いたことは、研修参加者のボランティアに対する評価が高く、自分にできるのかと不安に感じている人が多かったことです。私は支援を引き出しと考えていて、同じ引き出しはいくつもいらぬし、自分の引き出しで対応できない時は他人の引き出しを借りれば良いので、支援者が完璧な

人間である必要はないと思っています。

行政側の支援者として私は働いていますが、ニーズと制度の狭間で、個人として理解できても組織として対応できないというジレンマを常に感じていました。様々な人々に関わることで個々の持つニーズに応えることができるという意味で、このバラエティーに富む参加者に期待しています。

楽しく考える時間を有難うございました。

「ボランティア研修会を振り返って」

tenko

HIV/AIDSの医学的知識から、自分の性格分析、支援とは何なのか、ということまで、たくさんのことを学び、とても充実した3日間でした。

HIV陽性者の方のお話を伺ったとき、私はHIV/AIDSと共に生きているのだと感じました。統計や資料を見れば分かりきっていることなのに、その事実を実感できないのが今の日本なのかもしれない、とも思いました。また、HIVポジティブ/ネガティブであるとか、ホモセクシュアル/ヘテロセクシュアルであるという区別は、日常生活ではあまり意味のないものだということに気付かされました。そういったことは、人を形成している一部でしかないのに、ひとつのラベルを付けて他人を判断してしまっている自分にも気付きました。

様々なバックグラウンドの人たちが、様々な動機を持って参加していたこの研修では、実に様々な意見や考え方が聞かれ、バラエティーに富んだ会でした。でも、自分と異なる考えをお互いに認め合おうとしていた空間だったと思います。それもこの研修の楽しいところでした。

最後に、この研修を準備・実施して下さったスタッフの方々に感謝いたします。

「出会いも生まれた研修」

びっくりどん子

自分がこの研修に参加しようと思ったのは、ずばり「自分を変えたかった」から。告知から1年がたち、未投薬ながらも仕事を続けて前の自分と変わりなく生活できることに、感謝の気持ちを忘れ、周囲にわがままを通し、大切な人間関係もぎくしゃくしてきたから。だから、「誰かのために思い行動できる、そんな人間になりたい」と思って参加した。

研修会場に足を踏み入れると、30人ばかりの受講者は十人十色。性別、年齢、セクシャリティ、ポジもいればネガもいる…。この1年はポジのつながりばかりだった自分にとって、新鮮な光景。研修内容はどれも充実していて、最後は心地よい疲れだった。グループワークでは、様々な立場の人が集まり繊細な内容の話し合いをしたので、ポジの自分をどこまで出してよいか、正直戸惑いながら語り合った。

そのワークで一人の女性と知り合った。先日愛する家族をエイズで亡くされた方。自分は、ポジ当事者同士気持ちを伝え合うことはあっても、その周囲で温かく見守る側の人の気持ちを聞くことって、無かった。だって、自分は家族には秘密にしているから。家族を思い、涙をうかべながら遠くを見つめる彼女のまなざしが、自分の胸にささった。その女性のふりしぼるような言葉「最後は家族全員で受けとめ、一緒にささやかな幸せの日々を送れたことがよかった…」が、今でも心に残っている。

今後はパティ部門で自分なりに無理せず、「自分探し」をしたいと思っている。

活動報告他(2007年7~9月)

— 各部門より —

● ホットライン

エイズ電話相談 (ふれいす東京および東京都委託)

◆ホットライン・ミーティング他活動状況 ()内は出席人数

- 7月 13日 東京都電話相談連絡会 (2名)
- 21日 東京都ボランティア講習会 (3名)
- 22日 スタッフミーティング (16名) 世話人会 (5名)
- 8月 10日 東京都電話相談連絡会 (2名)
- 19日 スタッフミーティング (17名)
- 有志昼食会 (8名)
- 第1回・新マニュアルプロジェクト (7名)
- 9月 9日 スタッフミーティング (14名)
- 有志昼食会 (7名) 世話人会 (6名)
- 14日 東京都電話相談連絡会 (1名)
- 24日 HL 学習会「陽性者対応について」(11名)
- 30日 HL 部門研修/オリエンテーション (3名)

◆相談実績報告

— ふれいす東京エイズ電話相談 —

	7月	8月	9月
日数(日)	5	4	5
総時間(時間)	20	16	20
相談員数(のべ人)	7	5.5	6
相談件数(件)	42	37	45
うち(男性)	36	33	36
(女性)	6	4	9
(不明)	0	0	0
(陽性者)	0	0	0
1日平均(件)	8.4	9.3	9.0

— 東京都夜間・休日エイズ電話相談 — (委託)

	7月	8月	9月
日数(日)	14	13	14
総時間(時間)	42	39	42
相談員数(のべ人)	32.0	33.5	33.0

相談件数(件)	223	271	303
うち(男性)	161	210	230
(女性)	62	61	72
(不明)	0	0	1
(陽性者)	3	1	3
1日平均(件)	17.2	20.9	21.6

7月の相談件数は、ぶれいす東京と東京都共に少し低調でしたが、8月9月は持ち直しました。7～8月にかけてはいつもより10代からの相談が多く寄せられました。例年の事ですが、夏休みの行動によるものと思われます。また、この3ヶ月は、かなり深刻な不安障害領域と思われる方からの相談がありました。(報告：佐藤)

ぶ☆PEP

若者による若者のための予防啓発活動

ぶ☆PEP 活動内容

◆ミーティング他活動状況()内は出席人数

7月	8日	ぶおー・ていー企画ミーティング(2名)
8月	5日	エンパワーメント評価研修(4名) 講師：生島
	11日	プライドパレード参加(5名)
	22日	定例ミーティング(2名)
9月	1日	オリエンテーション参加(1名)
	17日	合同研修参加(1名)
	23日	合同研修参加(1名)
	23日	定例ミーティング(4名)

(ぶ☆PEP 活動報告：じっつー)

◆活動内容

7-9月は、プライドパレードへの参加以外には特にイベントもなく、どちらかというと、定例ミーティングの実施や、東京都エイズ予防啓発拠点事業ぶおー・ていーで実施する企画の打合せ、内部向け勉強会など、イベント開催のための準備を活発にできていたと思います。(報告：じっつー)

大人ぶ☆PEP 活動内容

◆10/6 大人の女性向けセミナー @ぶおー・ていー MTG

8月	28日	実施概要打ち合わせ メンバー：いみ、ともこ、みず
9月	3日	セミナー第二部ワークショップ打ち合わせ メンバー：いみ、ともこ、みず+兵藤智佳さん
9月	9日	セミナー第一部講演打ち合わせ メンバー：いみ、ともこ、みず+対馬先生、五十嵐さん(銀座クリニック)

メンバーがフルタイムで働いているため、直接会って話し合うミーティングは、3回のみ。あとは、メールで緻密に話し合いを重ねました。好評だったセミナーの様子は次回のニュースレターで報告しますので、ご期待ください！(報告：柳田)

バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

◆バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

(第1木曜 11:00～ 第3木曜 18:30～)

7/5	3人	7/19	4人
8/2	2人	8/16	4人
9/6	2人	9/20	4人

※その他個別のミーティング 10件

◆利用者数

8カ所の病院に通院中、もしくは入院中の23名の方へのべ27名のバディスタッフを派遣

◆活動内容(2007年9月末現在)

派遣継続中	19件
在宅訪問	12件
病室訪問	3件
在宅の電話のみ	1件
派遣休止	3件

◆7月～9月の新規派遣依頼

3件

◆7月～9月の派遣調整

6件

◆バディの現場から

7月以降、新規の派遣依頼が3件、派遣調整が6件ありました。新規は単発が1件で、継続が2件ですすでに担当が訪問を行っています。また、9月の合同研修を修了した15名のバディ希望者が10月7日のバディ・ワークショップに参加しました。(詳しい報告は次号にて。)新規派遣、派遣調整が定期的に入っているため、今後はこうした新しいメンバーの力を借りながら、派遣の調整を行っていききたいと思います。担当をもつバディの方もぜひ新顔を覗きにミーティングに参加してください。皆様今後ともよろしくお願いします。(報告：牧原)

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

◆ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)	(*ファシリテーターなど)
7月	25日	283名	(16名)	(14名)
8月	23日	180名	(4名)	(5名)
9月	25日	231名	(6名)	(10名)

(*はファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

◆カフェ・ネスト

7月	4回	57名
8月	4回	40名
9月	4回	34名

◆ピア・グループ・ミーティング(PGM)

・新陽性者 PGM 第35期(参加者5名)
7/12 7/26(修了)

- ・新陽性者 PGM 第 36 期 (参加者 6 名)
8/4 8/18 9/1 9/15 (修了)
- ・陰性パートナー・ミーティング
7/14 (2名) 9/8 (4名)
- ・ミドル・ミーティング
7/14 (11名) 9/8 (8名)

◆学習会/イベント

- ・ネスト庵「納涼の茶」 7/7 (16名、ご亭主1名)
- ・ストレス・マネジメント講座3 (第1クール) 7/23 (6名)
- ・ストレス・マネジメント講座1 (第2クール) 9/10 (4名)
- ・プラスランチ・パーティ 9/16 (22名)

◆ミーティング (陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング
7/31 (4, 5) 9/25 (2, 5)
- ・web NEST 運営委員会
7/24 (2, 2) 8/28 (3, 2) 9/18 (2, 2)
- ・カフェ・ネスト運営ミーティング 7/18 (1, 7)
- ・ネスト世話人会 7/18 (1, 3) 7/24 (1, 3)

◆ネスト・ニュースレター

7/13 7月号発行、8/10 8月号発行、
9/14 9月号発行

◆web NEST より

昨年9月にweb NESTの掲示板がリニューアル・オープンして1年。web NESTのサイトやネスト・ニュースレターで1周年キャンペーンを行いました。これからもHIV陽性者やパートナー・家族の交流の場として、より一層活用していただければ幸いです。

「みんなの日記帳」には、8月から新規ライター2名が加わりました。また、「よくある質問集」では、随時追加アンサーを掲載してアップデートを図っています。用語集もスタート時の20から43に増え、web NESTらしい用語集になってきました。

最近web NESTを見てないなあという方はぜひご覧ください。(報告:はらだ)

Gay friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動
<http://gf.ptokyo.com>

◆Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 9件 (平均2.25件)
8月 9件 (平均2.25件)
9月 11件 (平均2.75件)

6ページの記事でもご紹介していますが、新宿二丁目コミュニティセンターaktaにて「OUR DAYS展」を開催いたしました。残念ながら来場者数は多くありませんでしたが、次のイベントにつながる企画になったと思います。

今回のイベントですが、12月に、同じaktaと、やはり新宿二丁目にあるCOCOLO Cafeにて展示イベントを行います。aktaでは12月1日から16日までの期間、日記をテーマにした展示を、COCOLO Cafeでは12月1日から31日までの期間で食卓をテーマにした展示を行います。是非ご来場ください。

2つの企画展の様子は次号でレポートいたしますので楽しみに。(報告:sakura)

HIV陽性者への相談サービス

◆相談実績 2007年7～9月

2007年	7月	8月	9月
電話による相談	76	83	51
対面による相談	66	33	46
E-mailによる相談等	62	46	51
うち新規相談	18	22	12

★メール新規は含まず

◆7～9月の新規相談者の属性 (N=52)

陽性者:36人 (男性:34 女性:2)
確認検査前:1人 (男性:0 女性:1)
パートナー (元):5人 (男性:4 女性:1)
家族:5人 (男性:1 女性:4)
友人・知人:1人 (男性:0 女性:1)
専門家 4人 (男性:0 女性:4)

◆7～9月新規相談者の情報源 (N=52)

インターネット:15件、他陽性者:7件、他電話相談:5件、前から知っていた:5件、保健所・検査所:4件、パートナー:3件、本・パンフレット・プリント:3件、カウンセラー:3件、医師:2件、看護師:1件、友人:1、不明:3件

◆7～9月の新規相談内容

【ミーティング参加等】

- ・病院でネストNLを読んだ。カフェ・ネストにいきたい。
- ・自分が経営している店で募金活動をしたい。
- ・一年たって、他の陽性者と交流したいと思った。
- ・付き合いだしたパートナーが陽性者だった。ミーティングに出たい。
- ・保健所で告知時にもらった資料のなかに、PGMの案内がはいていた。
- ・壮年の女性。病院の外来でネストNLをみて、来てみたいと思った。

【検査や告知】

- ・保健所で陽性がわかった。プライバシーとか嫌な経験をするのではと不安で、まだ未通院。
- ・3日前に皮膚科で陽性だとわかる。ネットだけでなく、情報を得たいと連絡した。
- ・7月にカリニで発症で入院。カウンセラーからの紹介で電話した。
- ・昨日告知をうけた。「いきなりエイズ」というのを聞き、不安になり検査。
- ・北陸在住。体調不良から地元保健所で検査を受け陽性だった。病院情報を知りたい。
- ・女性。迅速検査で判定保留で混乱。数日後に保健所から、1週間後の確認結果が早めに出たとの電話。それで不安に。(後日、陰性)
- ・4年前に感染を知ったが、未通院。経済的な理由で健康保険にはいっていなかった。

【人間関係】

- ・2週間前に告知で頭が真っ白。周囲の人間関係や職場への告知で悩んでいる。
- ・自分は家族だが、本人は亡くなったので郵便を止めて欲しい。
- ・自分の友人が海外で発症したらしい。どうアドバイスしたらいいか。

- ・東海地方男性。世間が狭いので病院で知りあいに会う。普段の交際範囲が狭くなりがち。
- ・近畿の男性。相談していた掲示板のオーナーから紹介されて電話しました。
- ・近畿在住。息子の感染がわかった両親と元彼が、病院経由で一緒に来所。
- ・家族の婚約者の感染がわかり、家同士のことになり混乱している。
- ・先週、検査所で感染が判明。大学病院に通院。パートナーは告知したが受け止められるのか心配。

【医療など】

- ・明日、ネストにいてみたい。他の陽性者に紹介された。自分はリンパ腫で大変だった。
- ・元彼が体調不良があり、近所のクリニックで異常がみつかり、大学病院で確定診断。医療機関の診療経験も少なく、本人の混乱が強かったので親に連絡。親は本人を田舎に連れ帰ってしまった。
- ・医療環境への不安。医療費の軽減について。

【生活や福祉】

- ・団体生命保険について知りたい
- ・他の難病をもっている。在宅支援を依頼したい。
- ・医療系学校で実習に出せないと言われている。どうしたらいいか。
- ・保健所で告知を受けた。1週間前。パートナーが発症で入院がきっかけ。保険証がない。
- ・近所の病院に皮膚症状で入院で感染が判明。路上生活者の宿泊施設にいるが、今後のことが不安。
- ・住民税の申告にいった。障害控除を申請したのだが、会社の方にどのような連絡がいくのか。
- ・近畿の病院に通院している。2回目の検査結果を聞いたところ。経済的に行き詰まっている。
- ・職場で嫌がらせにあっている。それを理由に解雇された。弁護士を紹介して欲しい。
- ・首都圏。息子の感染がわかった母親からの相談。息子がPML（進行性多巣性白質脳症）だった。在宅が問題に。
- ・公務員。発症で入院。復職が可能かが不安。

【メンタル】

- ・薬物の問題をかかえている。今すぐにフルタイムの仕事はできない。住むところがない。
- ・セックスの相手の体調が不良で感染させてしまったはず。責任をとって死のうと思う。
- ・感染がとても不安。感染しているはず。告知の日に面談予約をいれたい。
- ・友達の感染が判明で自分も検査を受けたら陽性だった。薬物で警察につかまった経験がある。

【就学 / 就労】

- ・医療系学校の校長。生徒から感染を知らされた。研修先には伝えるべきだと考えている。
- ・今度就職するので、国保から社保に変更になると会社にばれないか。
- ・会社の吸収合併、リストラが続いている。次は自分かという不安がある。

【専門家】

- ・保健師、視覚障害の方への在宅支援について相談にのってほしい。

- ・都のカウンセラー、職場を休職している方に関する相談。
- ・保健師、PMLの家族の方のサポートをお願いしたい。もめんの会への参加も勧めたい。
- ・医師、人間関係が狭くなっているため、入院中に面会に欲しい。

(報告：牧原 / 福原 / 生島)

研究部門

厚生労働省 厚生労働科学研究

- ◆「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」(2006年度から)

大阪府立大学の東優子さんが主任研究者となって行われている研究で、今年度もぷれいす東京のメンバーが研究に協力しています。

(報告：吉田)

エイズ予防財団「エイズ予防のための戦略研究」

- ◆ 首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象としたエイズ予防のための戦略研究(分担研究者：市川誠一)

首都圏グループには、ぷれいす東京からは、生島、砂川、矢島、岩橋がこのプロジェクトに参加しています。特に相談体制構築を委託されています。10月からは関西サポートラインが相談を開始しました。また、来年度からは東京地区でも同様の取組みを開始することについて、検討中です。告知直後のHIV陽性者にサポートを提供すると同時に、告知を受けた当事者の評価情報を収集し、検査環境を改善することを目指しています。

【首都圏グループ】

「HIV マップ」2007年8月オープン

<http://www.hiv-map.net/>

HIVについて知りたい時、悩んでいる時。このサイトは一人ひとりが自分なりの現実に向き合うことを応援します。

【関西グループ】

「陽性者サポートライン関西」2007年10月スタート

このホットラインは、陽性とわかって間もない人のための電話相談です。HIV陽性者の相談支援経験が豊富な相談員が対応しています。

水曜日 19:00-21:00

06-6358-0638

<http://www.posp.jp>

(報告：生島)

※ 事務所移転のご案内

ぷれいす東京の事務所は、2007年10月8日移転いたしました。電話・FAX・メール等の連絡先は従来と変わりません。住所のみ、同じマンション内の1階下に移動しました。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



引っ越しを終えて新しい事務所にて…。

新住所

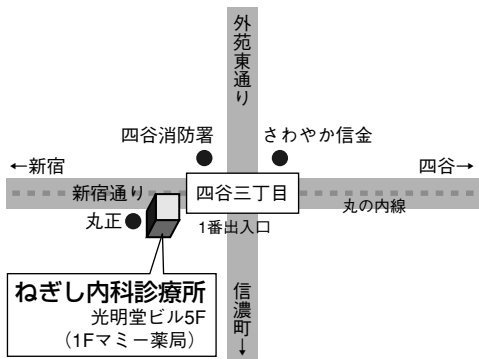
東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス 204号

お知らせ

ボランティア感謝会 & 成果発表会

■ ボランティア感謝会

- 【日時】 11月22日(木) 16時～17時頃
【会場】 ねぎし内科診療所
東京都新宿区四谷3-9 光明堂ビル5F
丸ノ内線四谷三丁目駅1番出口から徒歩1分



ねぎし内科診療所 URL
<http://www1.odn.ne.jp/negishi-naika/>
及び
<http://www.hivkensa.com/shosai/13-76.html>

ぶれいす東京の活動を10年以上にわたりボランティアとして支えてくださっている方々の労に対し、感謝の意を表すささやかな会を催すことになりました。当日は、現在ぶれいす東京の活動に携わっているスタッフを中心に、様々な別部

門の方々と交流できる機会ともなる予定です。参加のお問い合わせは、ぶれいす東京事務所(生島/原田)まで。

■ 研究成果発表会

- 【日時】 11月22日(木) 18時～20時頃
【会場】 ねぎし内科診療所
東京都新宿区四谷3-9 光明堂ビル5F
丸ノ内線四谷三丁目駅1番出口から徒歩1分

【テーマ】

「予防啓発のための『しかけ』の開発」

昨年、出版社の小学館と研究班が合同で実施した「性産業を利用する男性へのアンケート調査」の結果を報告するほか、研究班の過去の成果の集大成である複合映像教材「Let's CONDOMing!」、Living Together 戦略などを紹介します。

【演者】(予定、いずれも分担研究者):

- 徐淑子(新潟県立看護大学)
池上千寿子(ぶれいす東京)
生島嗣(ぶれいす東京)

当研究成果発表会は、どなたでもご参加自由となっております。今年開業したばかりの綺麗なクリニックの多目的ホール、交通至便、入場等勿論無料ですので、ご都合のつく方は、どうぞふるってご参加下さい。

- 主催:(財)エイズ予防財団
企画/運営:ぶれいす東京
厚生労働科学研究費
(エイズ対策研究推進事業)
研究成果等普及啓発事業

- 【問合せ先】 03-3361-8964
ぶれいす東京事務所(担当:吉田)

■ ぶれいす東京より 賛助会員入会・寄付のお願い

HIV陽性者の数は年々増え続けています。新たな治療法は開発されていますが、治療を続けながら生活する上では様々な問題が発生しています。HIV陽性者とその周辺の人たちへの支援、コミュニティとして取り組んでいる予防活動等、私たちの活動へのニーズがますます高まっており、必要な運営資金も増え続けています。よりよいサービスやプログラムを継続するために、ぜひ私たちの活動を応援してください。

賛助会員入会のお願い

継続して応援して下さる方は賛助会員になってください。

--- 賛助会員になるには? ---

メールか電話/FAXで賛助会員入会をお申し込みください。折り返し、ぶれいす東京の案内と賛助会費専用の振込用紙をお送りします。
E-MAIL info@ptokyo.com
電話 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835
年会費 個人賛助会員(一口) 1万円
団体賛助会員(一口) 10万円

寄付のお願い

そのほか随時寄付をお受けしています。ぶれいす東京の活動をぜひともご支援ください。ご寄付はいくらでも結構です。匿名でも可能です。

--- 寄付の振込み方法 ---

- ◇ぶれいす東京の活動全般に対する寄付
郵便局 郵便振替口座 No.00160-3-574075
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子
銀行 三井住友銀行 高田馬場支店 普通 2041174
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子
- ◇HIV陽性者への直接支援活動「ネスト/パティ」への寄付
銀行 三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1314375
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子
- ◇Gay Friends for AIDSの活動への寄付
銀行 みずほ銀行 高田馬場支店 普通 5507255
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 理事 生島 嗣

■ 編集後記

- ・最近…DSの眼力トレーニングと天然酵母パンにはまっています。小麦の値上がりがちちょっと気になる日々。今年もNEWSLETTERではお世話になりまして、ありがとうございました。(こんどう)
- ・事務所の引っ越しが無事終わりました。この機会に事務所の整理整頓を思い切って進めようということになり、見違えるほどスッキリしました。嗚呼快適!!(やじま)
- ・11月に入り、カゼで体調を崩してしまった。日頃の体調管理を後手にまわしていた結果なのかもしれない。ギリギリをキャッチフレーズにしてきたけども、考え直さないと。(いくしま)

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204
TEL: 03-3361-8964 (月-金 12:00~19:00)
FAX: 03-3361-8835
E-mail: info@ptokyo.com
ぶれいす東京HP: <http://www.ptokyo.com/>
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>
Sexual Health: <http://shw.ptokyo.com>